



International Federation
of Airworthiness



Flight Safety Foundation



International Air Transport
Association

Joint meeting of the FSF 57th annual International Air Safety Seminar IASS,
IFA 34th International Conference, and IATA

*Sharing Knowledge
to Improve Safety*
Proceedings

Shanghai, China
November 15-18, 2004

Hosted by



Printing sponsored by



EMBRAER

FSF 国際航空安全セミナー 上海レポート

理事 上谷 茂

操縦士協会から初参加

上海蟹のベストシーズン、東シナ海をひとつ飛び、いってきました国際セミナー。浦東（プードン）国際空港は夕方のラッシュ時間が入国審査の長蛇の列で一行を歓迎してくれました。一行はこれから始まるハードな日々を知っているのか言葉少なめでした。第57回 FSF 国際航空安全セミナーが2004年11月15日から18日まで浦東シャングリラ・ホテルで開催されました。

ホテルのある（プードン）地区は国家プロジェクトとして開発が始まって以来、現在も整備され続けている新しい街です。近くには468メートルというアジアの高さを誇るテレビ塔、東方明珠塔（ドンファンミンジューター）や地上88階建て、420メートルの超高層ビル金茂大廈（シンマオダーシャ）などが林立する未来空間です。黄浦江をはさんで対岸の外灘（ワイタン）には租界時代に建てられた西洋建築を眺めることができます。日本からは、ATEC 1名、ANA グループ 5名、JAL グループ 6名そして JAPA から 5名総勢17名、全世界からの参加500名余りの大規模なセミナーでした。



FSF CEO Stuart Mathews 氏と協会メンバー
(筆者はカメラマン)

FSF (Flight Safety foundation) とは

FSF (航空安全財団) は航空安全推進を目的とする非営利団体で1947年に設立されました。本部は米国バージニア州にあり、約170カ国、900余りの企業・団体が加盟しています。

1970年代の前半、当時の航空事故の中で「航空機が機体健全であるにもかかわらず、パイロットが気づかないまま地面あるいは水面に激突する事故」の発生率が高く、その対策として GPWS が導入されました。しかし事故原因追求と対策、および適切な訓練について十分な成果を挙げたとは言えず、新装置による誤作動と不要な警報の結果、警報が鳴ってもパイロットは十分に反応しないという問題が出てきました。

1990年頃から、依然として発生率の高いこのタイプの事故を CFIT と呼ぶようになり、FSF はその撲滅を目指して CFIT Task Force を設置しました。1993年6月、ICAO がこの活動に協力することとなり、以後共同の Task Force として1998年までに世界の CFIT 事故を半減させることを目標に活動が進められてきました。

その活動が一段落し、FSF は飛行フェーズのなかで事故の発生が多い「進入と着陸の事故 ALA」に焦点を移しました。1996年に CFIT ステアリング委員会が改組され、タスクフォースを設けて ALAR に取り組むこととなりました。

CFIT : Controlled Flight Into Terrain
= 健全機の対地激突

ALA : Approach and Landing Accidents
= 進入・着陸事故

ALAR : Approach And Landing Accident
Reduction = 進入・着陸の事故低減

セミナー

公演は15日の上海博物館での前夜祭につづき、16日から18日まで3日間、8時30分に始まり17時30分までとかなり長時間なものでした。しかも英語もしくは英語の翻訳つきの中国語での発表ですので睡魔の立ち入るすきもありません。パワーポイントを用いたプレゼンテーションは、ほとんどの方が持ち時間の30分以内にピタリと終了するというすばらしさです。事前の準備と情熱を感じました。世界の航空安全の現状に始まり、中国航空界のFOQA、CRMなどの紹介など多岐にわたりました。驚いたことに中国はAIPを電子化(CD-ROM)した最初の国だそうです。またイラクで離陸後にミサイル攻撃を受け油圧系統不作動のまま、左右のエンジンの出力コントロールだけで無事生還した話では、全員立ち上がり割れんばかりの拍手が沸きあがりました。非常に感動的でありジンとしてしまいました。我々はまさに航空界の新ヒーロー誕生の場に立ち会うことが出来たのです。

青木 茂樹 (JAL-I)

乗務では何度か来たことのある上海ですが多くの発見が多くありました。日常運航にも役立つ情報を自分自身で直接聞くことができ大変有意義なセミナーでした。有難うございました。

伊藤 勇一 (理事、東京消防庁)

まず驚いたことは、各国からたくさんの方が来ていたことと、講演数が多く、内容も充実していたと思います。ただ、残念なことに私の語学力ではなかなか理解出来ませんでした。(もっと若い時に勉強しておけばと後悔しています。) あいにく講演内容に小型機をテーマにしたものはありませんでしたが、あまり情報が入らない空港内での接触事故や実際に起きた緊急事態からの奇跡の生還の話題など何点か印象に残ったものもありました。航空安全に対する取り組み、事故防止の対策については、大型機も小型機も関係なく共通のテーマだとの分析や実話による奇跡の生還の話が将来できると小型機の事故も減少していくような気がします。

井上 潤 (ANA)

まず非常に多くの参加者に驚きました。海外でのセミナーと言うことで若干の不安もありましたが、世界の多くの人々が航空安全のために努力を続けている姿を目の当たりにし機長昇格直前の自分にとって大変有意義な刺激となりました。有難うございました。

山中 祥暢委員 (安全委員会、JAL-J)

このセミナーを受けて日常の運航に直接役立つ情報を多く取得しました。ATEC、各航空会社、そしてJAPAからの参加者が集まったため、セミナーの話をはじめ国内の運航について活発な情報交換が実施できました。国際セミナーという性格上、他国の乗員やメーカー等、非常に多くの方々とコンタクトが取れる環境があり成果があったと感じています。今後も国際会議やセミナーへの参加、あるいは、CABの事故調査官がその委員会にオブザーブされていることから、英国のエアー・アクシデント・インベスティゲーション・コースへの参加は航空安全またJAPAにとっても大変有意義であり機会があれば委員を派遣していただきたい。最後になりましたが、セミナーの参加を決定していただいた役員、委員の方々、様々な手配を担当された斉藤様をはじめ多くの方々に感謝します。

上谷 茂 (理事、ANA)

JAPAから初参加ということで緊張しましたが、参加者それぞれに得るものがあり大変有意義なセミナーであったと思います。このような機会を与えていただき感謝しております。特に齋藤さんには、セミナーへのエントリーやホテルの手配をはじめ、なにからなにもまでお世話になり有難うございました。またなぜか上海に詳しい山中委員には、『上海蟹の夕べ』をセットしていただき大変良い思い出となりました。目も耳もそしてお腹も一杯の上海でした。謝謝!!

FSFの解説はANAの「安全飛行」誌を参考にさせて頂きました。